



保育は本当に魅力ある仕事です



理事 西村 孝幸

引き続き理事を務めさせていただきます。墨田区の小梅保育園の西村でございます。少しでも会員園の皆様のお役に立てるよう努めて参ります。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類となって1年が過ぎました。

これにより、ようやくそれぞれの園での活動が従前に戻ってきているかと思えます。当園においても、高齢者の方との交流など、今まで控えていたものができるようになってきました。いよいよこれからコロナ禍後の本格的な保育を当初から実施できる年度となります。

このような中、リモートワークの増加等、保護者の方の働き方にも変化が起きました。そのせいか、近隣の園の園長先生と話していると、延長保育を利用する児童が少なくなって収入が減少したという声が聞かれます。

また、個別的配慮の必要な児童の増加により、職員の加配が急に必要になった等の話題もよく上がります。そして現在は、様々な地域で定員割れが起り、保育園運営を圧迫する事態となっています。

保育園事業者にとって本当に難しい時代になったと実感しています。

加えて、昨今の不適切保育の報道等により、保育業界を目指す若者が減少していることも懸念材料です。何とか保育業界を目指す若者が増えていくために、現場として何ができるかを模索している最中です。

さて、量の拡大が一段落ついた今、これまで以上に、より保育の質の向上が求められています。ご承知のように今年度、都では「とうきょう すくわくプログラム」という保育の質の向上に着目した事業を開始しました。

先日、昨年度先行的に実施した施設の動画を拝見しましたが、とても興味ある内容で、是非多くの園が取り組めればと思っています。

墨田区においては、約10年前から「子ども主体の協同的な学び事業」という未就学の施設に向けての質の向上の取り組みを行っています。こちらについても引き続きこれから求められる保育というものについて、地域特性も踏まえながら考えていきたいと思っています。

それから、保育の質・保育の魅力発信という事について、もう一つ区内で実施した研修があります。

昨年度、墨田区の園長会が実施している年4回の研修のうち1回を、これからの保育所を担う若手の先生にその研修内容を託しました。

先生方の議論の中で、何をやろうか検討した結果、まずは「保育って楽しい、そしてやりがいのある仕事」「こんなに魅力のある仕事は無いのではないか」そんな意見が数多く出ました。だからこそ、そのベースとなる安全安心、そして子どもの人権を尊重した保育が必要になるのではということになりました。

そこで、まずは、保育の魅力、子ども達の育ちを共有し、明日からの仕事の活力にしてもらおうということで、当民保協の事務局長を務めていただいている曾木先生をお招きし、大いに語っていただきました。

この研修には、普段以上に多くの参加者が来場し大盛況でした。

日々忙しい中ではありますが、改めて、やるべき基礎は大切にしつつも、保育者一人ひとりが素敵な仕事についているという実感をもって、いきいきと働くことができるようになることは大切な、と感じた良い機会となりました。